

## 河頭中グループ校

(河頭中, 皆与志小, 小山田小, 伊敷小, 花野小, 犬迫小)

### 平成23年度 鹿児島市小・中連携研修会及び

#### 【研究内容】

各学校における教育的課題を基に, 小・中学校の交流を通して, 情報交換等を行い学習指導や生徒指導における課題解決に向けた取り組みを推進する。

研究主題「小・中におけるスムーズな移行・指導・支援の在り方」

#### 【全体会】

- ・確かな学力の育成 『「聞く時間」「考える時間」「書く時間」を意識させる授業の展開』について
- ・生徒指導の充実 「場に応じた言葉遣いの指導」について

1 日 程 6月15日(水) 14:30~16:40

2 授業参観(14:55~15:40)

14:30~	14:55~15:40 (45)	(10)	15:50 ~ 16:40 (50)
受付 (体育館)	授業参観 場所(2~6年生教室)		全体会 場所(体育館)
	授業参観 (15)	生徒指導情報交換会 (30) 場所:体育館	

学級	教科名	題材・単元名	授業者	場所
2年	国語	同じぶぶんをもつかん字	平原 雅世	2年教室
3年	算数	かけ算のひっ算	柏木 生美	3年教室
4年	算数	いろいろな四角形	小濱 博子	4年教室
5年	国語	敬語	丸山 正朋	5年教室
6年	理科	植物のからだのはたらき	森尾 和也	理科室
若竹	生活単元	七夕かざりをつくろう	榎木美千代	若竹教室

3 生徒指導情報交換会《授業参観後半と同時進行》(15:10~15:40)

会 内 容	参加者	会場
・新中学校1年生を中心に, 情報の交換を行う。	旧6年生担任または生徒指導主任・養護教諭等	体育館

#### 4 全体会（15：50～16：40）

協議内容	研究主題 「小・中におけるスムーズな移行・指導・支援の在り方」	会場
	・確かな学力の育成 『「聞く時間」「考える時間」「書く時間」を意識させる授業の展開』について ・生徒指導の充実 「場に応じた言葉遣いの指導」について	体育館

#### 5 各校の係分担

	全体会
進行	犬迫小
司会	犬迫小
記録	犬迫小

※ 本年度は分科会がないため、分科会の分担は、特にありません。

#### 6 会 順

##### 【全体会】

- (1) 開会の言葉（進行）
- (2) 講師紹介協議（司会）
  - ・ 共通実践事項の共通理解について
  - ・ 情報交換
- (3) 指導講話
- (4) 閉会のあいさつ（会場校校長）
- (5) 閉会の言葉（進行）

1 確かな学力の育成『聞く時間』『考える時間』『書く時間』を意識させる授業の展開について

各学校の手立てと課題

学校名	手 立 て	
	下 学 年	上 学 年
小山田小	① 発表者の方を向いて話を聞かせる。 ② 算数の「考える時間」では、自分なりの考えを書き出し、説明させる。さらに、時間のある子は、文字で表す活動の手順を指導。 ③ 考える時間では、発表のできた人は、小さく手をあげて考えたことを知らせる。 ④ 鉛筆の握り方、姿勢、ていねいに書く指導	① 自力解決の場（考える時間）をしっかりと確保し、その際の個別指導の徹底を図る。 ② 「書く時間」を指定（タイマーを利用） ③ 書く際には、自分の考えを書くよう指示。 ④ 予想の際は、根拠まで考えさせ、まとめは、自分の言葉でまとめさせる。
皆与志小	① 聞く姿勢のポイント ② 考える時間の確保 形態の工夫（ペアのグループ） ③ 書き方のポイントカード（主述）	① 聞く時の合図 ② 考える時間の確保 視点の提示（ヒントカード） ③ 書く構成の工夫（はじめ・中・おわり） （問い・理由・結論）
伊敷小	① 集会等で落ち着いて話を聞かせたい。	① 目的意識を持って話を聞かせたい。 ② 自ら考える段階まで到達させたい。 ③ 文字言語での表現に努めさせる。
花野小	① 学年の発達段階に応じた基本的な学習態度・技能を身に付けさせる。 「書く」→ 下学年（姿勢、聞き取りでメモ、自分の考えとのちがいを） 上学年（相手との相違点、相手の意見を尊重する態度） 「考える」→ 学習形態の工夫（自己内対話、他者対話） 共通実践事項の取組（めあて、発表、考える、定着の場の設定、まとめ） 「書く」→ 「ノートを使い方」の共通理解 授業の中で「書く時間」の設定、きまり 速写、試写、作文指導による技能の習得 ② 授業以外の取組で基礎となる力を付けさせる。 ・ 読書指導の充実（目標の設定、環境作り、読み聞かせ、読書活動の充実） ・ 各コンクールや新聞等への応募（意欲付け、生活に生かす） ・ 家庭学習の充実（自学帳など）	
犬迫小	① 「聞く時間」について ・ 姿勢を正しく、物を持たない。 ・ 相手を見て聞く。 ・ 話すときに、「〇つのことをいいます。」と聞く視点を与える。 ・ 確実に指示が通っているか、確認をする。 ② 「考える時間」について ・ 考える時間の確保をする。 ・ 学習形態の工夫をする。（例えば、1人→ペアで→全体 など） ③ 「書く」について ・ ノートの使い方のきまりを定着させる。 ・ ノート記録は、時間を決めて書かせる。	○ 学び方のスキルを身につけさせる。 ① 「聞く時間」について ・ 姿勢を正しく、物を持たない。 ・ 相手を見て聞く。 ・ 聞くべき場をしっかりと理解させる。 ② 「考える時間」について ・ 学習形態の工夫をする。（1人→全体） その後に他の意見から、自分の意見を修正させる。 ③ 「書く」について ・ ノート指導の徹底 ・ 視写への取り組み ・ 自分の考えを文章化する時間の確保と交流の場の設定
河頭中	① 生徒には、先に、「板書項目を書く時間をとらせる」ということを話している。説明を「聞くとき」「書くとき」は、声かけ・指示をしている。 ② 板書が早く書き綴る生徒へは、書き終わった後、補助教材を使って復習するように促す。（補助教材の問題集は、宿題となるため、生徒は一生懸命取り組む。）	

学校名	課 題	
	下 学 年	上 学 年
小山田小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国語テストなどでは、文章の抜き出しを間違っている子どもが多いので、今後、視写タイム等を設けて「書く力」を高めたい。</li> <li>● 個人差が非常に多く、特に書く活動については、時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 考える時間（考えさせる時間）を与えるようにはしているが、ヒントを出しすぎたり、声をかけすぎたりすることがある。</li> <li>● 考えたことを文章に書き起こすことが難しい子どもへの対応に苦慮している。</li> </ul>
皆与志小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イメージ化できない。</li> <li>● 二極化の実態から考えの広がりがない。</li> <li>● 目的意識を持って書けない子がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大事なことを聞き落とす子どもがいる。</li> <li>● 考えを広げ、深める場において個人差が大きい。</li> <li>● 語彙力の差や構成力の差が大きい。</li> </ul>
伊敷小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 45分間の授業をはじめ、行事・集会活動等において、落ち着いて話を聞くことが、なかなかできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ただ聞くだけでなく、目的意識を持って聞くことができない。</li> <li>● 答えを辛抱強く導き出したり、多様な考えを出したりするまでにいたっていない。</li> <li>● 言葉では表現できても、文字言語として表現することが苦手である。書く習慣が身につけていない。</li> </ul>
花野小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 下学年も上学年も支援の必要な子への対応が難しい。現在、指導法改善の先生や支援員の活用、オープン教室の実施等を行っているが、改善されない。</li> <li>● 「書く時間」を付ける十分な時間設定が難しい。</li> </ul>	
犬迫小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書く時間に個人差があるため、時間設定が難しい。</li> <li>● 自分の考えを書くことや話すことに対して苦手意識がある子どもへの指導。</li> <li>● 話を聞く態度や姿勢が、注意してもなかなか改善されない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども任せにせず、見届けが必要である。</li> <li>● 「自分の考えを書く」部分が、できない。</li> </ul>

## 2 生徒指導の充実「場に応じた言葉遣いの指導」について

### 各学校の手立てと課題

学校名	手 立 て	課 題
小山田小	① その都度、今の言葉遣いがよかったかどうかを振り返り、考えさせながら指導。不適切な場合は、その場で指導する。 ② 正しい敬語の使い方を教えている。 ③ その学年に応じた「エチケット」の本を紹介という形で一項目ずつ読み聞かせをして指導した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭と協力した指導の在り方。</li> <li>● 兄弟間の学校での言葉遣いに関する指導について、使い分け等の指導。</li> </ul>
皆与志小	① 立哨におけるあいさつ指導。立ち止まってあいさつ、目を見てあいさつ。 ② 発表話型（教科の特性を生かしたもの。研究テーマに沿って） ③ 教師が自ら声かけをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来校者へのあいさつ・・・声の大きさや態度など</li> <li>● 友達間の言葉遣い・・・呼び名や略語などの使い方</li> </ul>
伊敷小	① 特別教室や職員室への出入りの際には、繰り返しやり直しを行わせることで少しずつ習慣化。 ② あいさつの指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導が全体にいきわたっていない。</li> <li>● 職員へのあいさつはできるが、子ども同士での言葉遣いが課題である。</li> </ul>
花野小	① 相手を思いやり、相手のよさを認め合う雰囲気作り ② 時と場に応じた言葉遣いの意識 ③ 授業中の発表話型の共通理解と掲示 ④ 児童会テーマ～みんなであったかい言葉を言おう～に向けた各学級の特色ある取組 ⑤ 教職員全員での指導・共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上級生や先生に対する言葉遣いが悪い。</li> <li>● 上学年に進むにつれ、言葉遣いの荒さや呼び捨て等が増えている。</li> <li>● 差別的な言葉の意味を知らずに使っている。</li> </ul>
犬迫小	① 発表話型活用と返事の徹底 ② その場で言い直しをさせる「現場指導」とその繰り返し指導。（NGワードの確認） ③ 道徳の授業等での指導。 ④ 教師自身が手本を示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども同士や教師がいないところでの言葉遣いが問題である。</li> <li>● 本来の言葉の意味を考えずに乱用する傾向が見られる。</li> <li>● 言語環境として、メディア等の影響を受けやすい。</li> </ul>
河頭中	① 特段手立ては講じていないが、気づいたらその場での指導を行っている。 ② 職員室への入室指導 ③ あいさつ、返事をしっかりする指導 ④ 授業中は、丁寧語で生徒を苗字で呼名	

#### 【共通している課題】

- 特定の人への「あいさつ」や「言葉遣い」はできているが、生活全体に反映されておらず、特に子ども同士の言葉遣いに問題が感じられる。

～研究討議～

【研究内容についてのアンケート調査の結果】

1 書く時間の確保と個人差

(小山田小)

- ・ 特に書く時間、読む時間と意識しているわけではないが、授業の中である程度の意識をもって授業に取り組んでいる。書く作業にはある程度子どもによって差があるので、配慮が必要だと言うことが課題である。書く力を高める、高学年になると聞きながら書けることを意識して取り組んでいる。

(皆与志小)

- ・ 考える時間の確保ということで、学習の形態の工夫や視点の提示をこだわって授業の展開を行っている。課題としては、少人学級だが、習熟の差があるため、考えを広げ、深める場における個人差が大きい。

(伊敷小)

- ・ 下学年は、書くことよりも聞くことに重点を置いて指導している。中学年については、聞いたことをもとに集会活動の後に書く時間を設けたり、どんなことを話し合ったのかを自分の言葉を使って日記や特活ノートにまとめたりしている。
- ・ その時間を考える。(特活ノートの日記)

(花野小)

- ・ 考える時間ということで、自分の中で深める時間や他者の考えを聞いて広め深めていく時間を与えている。
- ・ 授業以外で意欲づけとして、コンクールや読書等を通して力をつけていくようにしている。課題としては、書く時間の設定が難しい。

(犬迫小)

- ・ 書くことについての課題は、個人差が大きい。時間の確保が難しい。

(河頭中)

- ・ 黒板を書く時間の中で、大切なところを絞って、ポイントだけをノートに記録するように指導している。
- ・ 聞くこと考えること、書くことを学習の手引きで指導しながら授業に取り組んでいる。(学期の当初にしっかりと指導しておく。)
- ・ 黒板を書くこと以外に説明の多い教師主導の授業だけではなく、課題を自ら考える時間、そして協力して考える時間、実験をし、自分の言葉でまとめるということをめざして頑張っている。
- ・ 自分の考えを自分の言葉で書くことがまだ難しい。

【共通している課題】

- ①書く時間の確保と個人差
- ②文章で表現する力をみにつけさせたいことと、その指導法
- ③自主的に参加する(行動する)力の育成

【小山田小学校】

- ① 書く時間の確保については、丁寧さの意味を考えさせる。美しいだけではなく早く書くことができる。時間を意識させる。
- ② 文章で表現するために書く場をしっかりと設ける。  
ノートの取り方については、書き写すのではなく書いたものを修正することによって、オリジナ

ルのものができる。(自己表現力が育成される。)

③ 自力解決の力にも個人差がある。次の課題を与える準備をしておく。

#### 【皆与志小学校】

- ・ 低学年では、書く時間がかかってしまうので、課題を書いた後の指示をしておき、友達が書き終わるまでの待つ時間を効率よく使う。(本を読ませたり、次の活動の準備をしたりしておく。)

#### 【伊敷小学校】

算数の研修の中で自分の考えを式だけではなく、言葉で書くことができるようにしノートを使って表現できるようにしている。まだ、全員がそのような状態になっていないので、上手にまとめている子どもたちのノートを書画カメラを使ってモデルとして与え指導している。

#### 【花野小学校】

- ① 毎日の書く時間については、授業の流れや発達段階に応じて取り入れている。
- ② 何字以内で書くなどの指導をしている。国語、社会など色々な教科で、説明を書く練習をさせている。
- ③ 宅習帳の予習、復習の中で自分で課題を見つけ、調べたことを書いてくるということも行っている。
- ④ 家庭学習の仕方の指導を中学校から教えてほしい。

#### 【犬迫小学校】

書く時間がかかるという理由の一つに、何を書いていいかわからないという子どもたちの迷いがあるようなので、言語を知らせることが大切ではないかと考えた。学校内の色々な言葉の設営や環境の中から、数多くの言葉に触れることができるようにしている。これからも継続して取り組んでいきたい。

#### 【河頭中学校】

学校共通の学習帳がある。(家庭学習をしない生徒とする生徒の差が出てきた。) 学期ごとに1冊購入。100円

小学校では、読むという学習が多くあるが、中学生になると、それだけではいけないので内容をノートにまとめることが大切。また、授業中は、学習目標を書いたことを書くのではなく、自分の言葉で要点を押さえて書く。子どもたちの発表を聞いて記録するなどを行っている。宅習帳についても、ノートを写すだけではなく、自分なりのわかりやすい言葉に書き直すように学習帳の指導をしている。(テストの後に間違ったところをもう一度やってみて、自分なりの考えを書いてまとめるとオリジナルの参考書ができあがってくる。)

## 2 生徒指導の充実 (場に応じた言葉遣いの指導について)

### 【共通している課題】

特定の人への「あいさつ」や「言葉遣い」はできているが、生活全体に反映されておらず、特に子ども同士の言葉遣いに問題が感じられる。

中学校より

「やばい」「きもい」など日本語らしくない日本語はその場できちんと指導をする。場に応じた言葉遣いをしっかりと指導する。公的な場と私的な場の言葉の使い方が曖昧になっている。

中学校より

小規模校の中で成長しているので、縦の関係ができていない。先生方への言葉遣い、生徒同士の言葉遣い、先輩後輩との関係の言葉遣い、自分の言葉で表現できる場を設定することができたらいいと思いました。小規模校ならではの言葉遣いになっている。中学生へ移行するときに、言葉遣いをマナーとして指導をすることが必要である。

中学校より

言葉遣いは、テレビの影響が大きい。考えさせる、振り替えさせることを意識して学習に取り組ませる事が大切。

(小山田小学校)

場に応じた言葉遣いだけでなく、場に応じた空気を読ませることが大切。その場その場で何をすべきなのか。中学生になって大規模校へ行くと、どうすればよいかわからない児童がいるので、テレビなどで獲得した言葉をどれだけ生きた言葉にするかが大切。

### 3 指導助言・講評 (河頭中 西園校長先生)

#### 【中学校の現状】

現在、不登校生徒0人。小学生から1年生になると不登校の生徒が3, 4倍になるという傾向がある。

#### 【テーマについて】

教師が意識しながら授業を組み立てないといけない。「聞く時間」「考える時間」とバランスを考えながら配当することが大切。学習課題に飛びつくと、流れがうまくいく。教師の意識した授業の組み立てが大切。ICT機器の活用を行うことで、課題に対する興味が生まれ、子どもたちの意欲に結びつき、授業の流れもスムーズになる。

#### ・ 授業作りに大切なキーワード

- ①適切な発問・問いかけ (課題解決に必要な問いかけに)
- ②温かい支援
- ③タイミングのよい称賛
- ④心地よい承認の雰囲気
- ⑤教師と子どもの信頼関係

#### 【生徒指導】

基本的な生活習慣の確立3点セット

- ①あいさつ
- ②返事
- ①履き物を揃える

学校だけではなく、家庭との連携において培っていくものである。

授 業 参 観 に つ い て	
参観校より	会場校より
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の提供、ありがとうございました。担当学年をそれぞれが参観した感想等を、今後の研修に生かしていきたいと思えます。</li> <li>○ 授業参観では、子どもたちが生き生きと活動していて、元気をもらいました。</li> <li>○ 一つ一つの授業が、しっかりした教材研究のもと、教材等が準備され、子どもたちが意欲的に参加していた。</li> <li>○ 発表話型なども、日常の指導の積み重ねを感じた。</li> <li>○ 階段・教室内外の設営等も季節感や子どもたちの学習の成果が分かるもので、大変参考になった。</li> <li>○ 授業参観では、子どもたちが、いきいきと活動をしていて授業を参観して、日常から学習のしつけをしっかりされているのを感じた。</li> <li>○ 授業の中で、学年に応じた適切な指示を行っていた。</li> <li>○ 校内の学習環境が、整備されており、学習に集中できる環境であることを感じた。</li> <li>○ 授業の中で、I C T機器の活用が図られ、児童の関心を引き出すことに効果的だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の様子を見ていただくことで、子どもたちへの接し方や設営の仕方など、新たに気づく部分も多かった。</li> </ul>
生 徒 指 導 情 報 交 換 会 に つ い て	
参観校より	会場校より
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短い時間ではあったが、直接会って話せる時間は大切。</li> <li>● 生徒指導の情報交換会に関しては、会の持ち方などを事前に係で検討しておく必要を感じた。(中学校より)</li> <li>● より時間があれば、また、旧担任と直接話せたら中学校側から前もって気になる生徒を挙げてもらい、話せたらよい。</li> <li>● 生徒指導情報交換会は、少し時間が足りませんでした、中1の様子が分かり、うれしかったです。時間配分は、課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は、授業参観が6校時ということがあって、どうしても時間の設定が難しかったが、中学校からの要望で会を設けた。情報交換会自体が有意義だということは確かだが、この『研修会』としての内容に入れることが、適切なのかどうかは、今後吟味していく必要がある。</li> </ul>
研 究 討 議 に つ い て	
参観校より	会場校より
<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 授業参観の後、短い時間でも構わないので、授業研究が行えたら教科間の連携も図られるのではないかと感じた。</li> <li>※ 研究討議において、柱に沿っての意見が交わされた。分科会があると、より、多くの先生方の声が聞けるかと思えます。</li> <li>● 日程の組み方は、各学校の状況に応じてで良いのか。(中学校で実施したときとは、変わっていた。)</li> <li>● 各校に取組を、一つ一つ発表してもらった後、また、各校に一つ一つ発表してもらおう進め方は二重になるのではないのか。</li> <li>※ 生徒指導関係では、中学校の先生の話の伺い、場に応じた言葉遣いを徹底していく必要があると感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日の日程については、昨年度の教頭会において、検討された。昨年度の反省の中で、「欠時を出さない」「中学校の先生方が多数参加できるため」の2点を改善するためにとった方法である。各校で説明があったと思うが、上記の点を優先するのか、また、もとの形に戻すのか、各校で意見をまとめていただき、今年度末に行われる打ち合わせ会にて、検討していく必要がある。</li> <li>・ 言葉遣いについては、別紙の全体会で話し合った内容を参考にして、実践し続けることが必要である。</li> </ul>